

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

Attn: Josh B
1/5

- 1 embroidery frame
- 2 groove of inner side of frame (does not mention the purpose of this.)
- 3 Glue
- 4 fabric
- 5 backing paper
- 6 screw hole to fix the frame with driving system

Josh,
Attached is Japanese patent dated May 15, 1991.
Items on pg 4 are defined above.

For

(2)

登録 2512186

3

う枠のように布を外枠及び内枠の間に布をはさみ込んで布を張るものでなく、布を刺しゅう枠の片面に押しつけることにより張設するように構成することにより、布が皺になったり、枠に対して縫う予定位置が曲がったりすることがないようにすることである。また、第2に刺しゅうを行う場合に従来のように誤って外枠または内枠に針が衝突して針が曲がったり破損するのを防止することである。また第3に伸縮性の布地で刺しゅう模様がゆがんだり縫い縮みが発生するのを防止することである。

(課題を解決するための手段)

本考案は前記した課題を解決するために、刺しゅう枠本体1の上面に布を取り付けるための感圧性接着剤3が塗布された刺しゅう枠において、前記刺しゅう枠本体1の一部に形成され、刺しゅう枠駆動機構のキャリッジに取り付けるための複数のピン穴6、6…と、針の貫通が可能な厚手の紙材または軟質のプラスチック等からなり中央付近に方形の切欠穴部2が形成された刺しゅう枠本体1と、前記刺しゅう枠本体の下面に前記切欠穴部2を含む範囲に剥離可能に接着された不織布5とを備えてなるマシン用刺しゅう枠の構造を提供するものである。

(作用)

本考案によれば、第1に従来の刺しゅう枠のように布を外枠及び内枠の間に布をはさみ込んで布を張るものでなく、布を刺しゅう枠の片面に押しつけることにより張設するように構成したので、布が皺になったり、枠に対して縫う予定位置が曲がったりすることがない。

また、第2に刺しゅう枠本体を厚手の紙材または軟質のプラスチック等の針の貫通が可能な材質のもので構成したので、刺しゅうを行う場合に従来のように誤って外枠または内枠に針が衝突して針が曲がったり破損するのを防止することができる。また第3に刺しゅう枠本体の下面に前記切欠穴部2を含む範囲に剥離可能に接着された不織布5を備えてなる構造としたので、この不織布により伸縮性の布地であっても従来のように刺しゅう模様がゆがんだり縫い縮みが発生するのを防止することができる。

(実施例)

本考案の実施例の構造について述べると、1は刺しゅう枠本体で、約1.0mm以上の厚手の紙材又は軟質のプラ

4

スチック材又は発泡スチロール材等、針が貫通可能な部材からなるものであり、中央には方形の穴2が形成され枠部の上面の前記穴2周辺には感圧性接着剤3が塗布されて使用前には感圧性接着剤の表面には保護紙4が貼られ保護されている。更に本体1の下面には中央の方形の穴を含む全域にわたって不織布5が接着されており、又枠の一部には複数のピン穴6、6…が形成されて構成されている。

本考案は以上の構造であるから刺しゅうを行う場合はまず保護紙4を剥がし枠本体1の中央の穴2に跨がるように、そして周辺の接着剤3に被刺しゅう布を貼る如くに張設する。

以上の如く布をセットした刺しゅう枠1の一部に形成のピン穴6、6…を刺しゅう枠駆動機構のうちの端部であるキャリッジに設けられた薄板製ばね材からなる押え部材7を起こして前記枠本体1を押し込んでピン部8に装着することにより取付けられる。

以上のように本考案によれば、第1に従来の刺しゅう枠のように布を外枠及び内枠の間に布をはさみ込んで布を張るものでなく、布を刺しゅう枠の片面に押しつけることにより張設するように構成したので、布が皺になったり、枠に対して縫う予定位置が曲がったりすることがない。

また、第2に刺しゅう枠本体を厚手の紙材または軟質のプラスチック等の針の貫通が可能な材質のもので構成したので、刺しゅうを行う場合に従来のように誤って外枠または内枠に針が衝突して針が曲がったり破損するのを防止することができる。また第3に刺しゅう枠本体の下面に前記切欠穴部2を含む範囲に剥離可能に接着された不織布5を備えてなる構造としたので、不織布5により伸縮性の布地であっても従来のように刺しゅう模様がゆがんだり縫い縮みが発生するのを防止することができる。

【図面の簡単な説明】

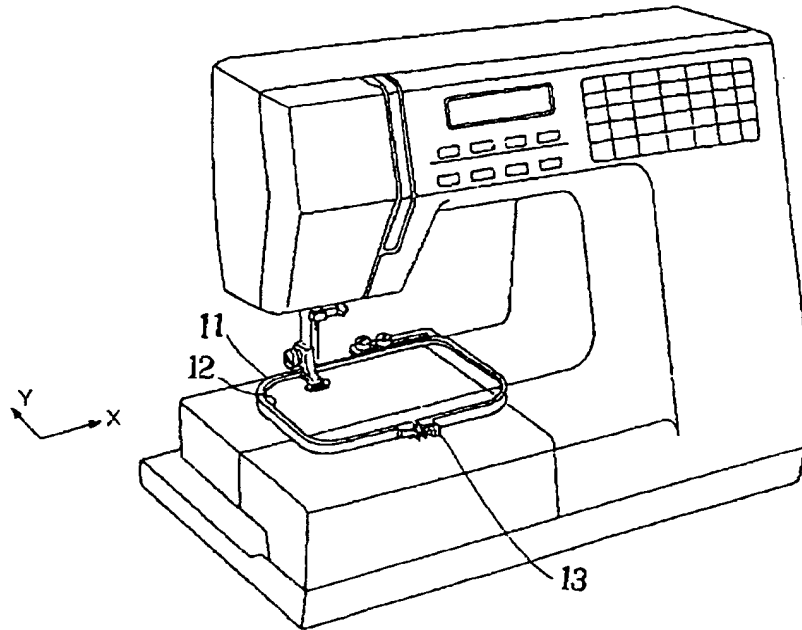
第1図は従来例の刺しゅう枠をとり付けた状態を示すマシン斜視図、第2図は本考案の刺しゅう枠をとり付けた状態を示す斜視図、第3図は本考案の刺しゅう枠の斜視図であり、1は刺しゅう枠本体、2は切欠穴部、3は感圧性接着剤、5は不織布、6はピン穴である。

40

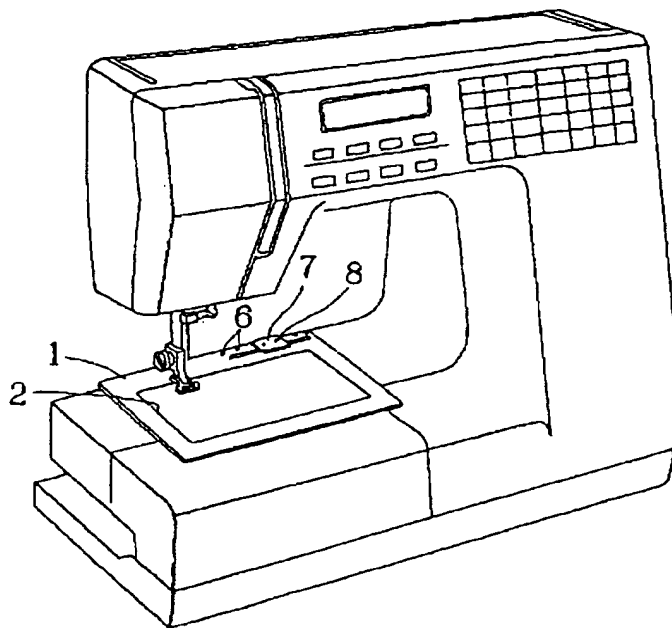
(3)

登録2512186

【第1図】



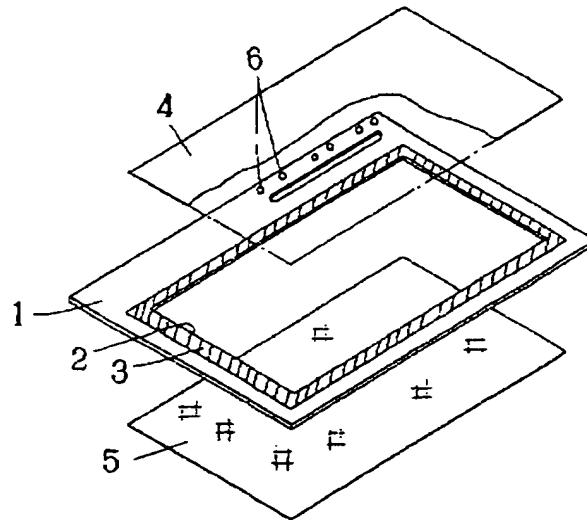
【第2図】



(4)

登録2512186

【第3図】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開 平1-104871 (J P, A)
特開 昭57-167443 (J P, A)